

二六二三番

紅くれなゐの 八入やしほの衣ころも 朝あさな朝さな なれはすれども
いやめづらしも

二六二四番

紅くれなゐの 深染ふかそめの衣きぬ 色いろ深ぶかく 染しみにしかばか
忘れわすかねつる

二六二五番

逢あはなくに 夕占ゆふけを問とふと 幣ぬさに置おくに 我わが
衣手ころもては またそ繼つぐべき

二六二六番

古衣ふるころも 打棄うつつる人ひとは 秋風あきかぜの 立たち来くる時ときに
物思ものおもふものそ